

(エイト)

下

キャサリン・
ネヴィル

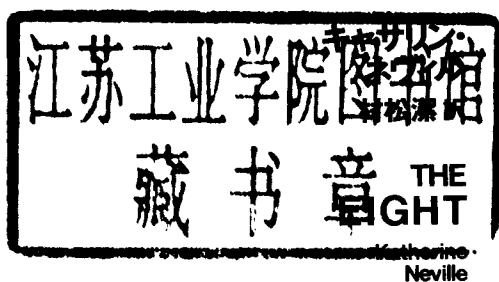
村松潔 訳

THE
EIGHT

Katherine
Neville



8 (エイト)
⑦



THE EIGHT
BY KATHERINE NEVILLE
COPYRIGHT © 1988 BY KATHERINE NEVILLE
JAPANESE TRANSLATION RIGHTS RESERVED BY BUNGEISHUNJU LTD.
BY ARRANGEMENT WITH BALLANTINE BOOKS,
A DIVISION OF RANDOM HOUSE, INC., NEW YORK
THROUGH TUTTLE-MORI AGENCY, INC., TOKYO
PRINTED IN JAPAN

8 (エイト) 下

一九九一年一〇月二五日第一刷
一九九二年一月一〇日第二刷

著者 キャサリン・ネヴィル

訳者 村松潔

発行者 松浦伶

発行所 株式会社文藝春秋

東京都千代田区紀尾井町三—二三
電話〓〇三—三二六五—一二一一

印刷所 凸版印刷

製本所 大口製本

万一落丁・乱丁があればお取替えします
定価はカバーに表示してあります

ISBN4—16—312810—7

8
(エイト)
下巻目次

局面の分析	9
砂漠の声	33
魔の山	65
城	89
王たちの死	115
黒のクイーン	165
失われた大陸	187
ツークワンク	235

白い土地 251

八段目 285

嵐のまえの静けさ 313

嵐 335

秘密 369

エンド・ゲーム
終盤戦 397

訳者あとがき 457

装画 北見隆
デザイン 坂田政則

8

(エイト)

下

主な登場人物

〔現代〕

- キャサリン・ヴェリス……………コンピュータの専門家
リリー・ラッド……………チエス・プレイヤー
ハリー・ラッド……………リリーの父 キャサリンの友人
ブランチ・ラッド……………ハリーの妻
ルウェリン・マーカム……………ハリーの義弟
アレクサンドル・ソラリン……………チエスのグランド・マスター
ラジスラーフ・ニム博士……………情報処理のエキスパート チエスの名人
モーデカイ……………リリーのコーチ ハリーの父
エミール・カーメル・カデル……………アルジェリアの石油局長 キャサリンのクライアント
アル・マラード……………アルジェリアの絨毯商人
シャリフ……………秘密警察のチーフ
ミニー・レンスラース……………占師 オランダ領事の未亡人

〔フランス革命直後〕

ミレーユ	見習い修道女
ヴァランティヌ・ド・レミ	見習い修道女 ミレーユの従姉妹
エレヌ・ド・ロック	モンブラン修道院長
シャルロット・ド・コルデー	修道女
ジャック・ルイ・ダヴィッド	画家 ヴァランティヌの後見人
シャルル・モリス・ド・タレーラン	オータン司教
カトリヌ・グラント	タレーランの妻
クルティアド	タレーランの従者
ジェルメーヌ・ド・スタール	パリ社交界の花形
ジャン・ポール・マラー	医師 革命の黒幕
マクシミリアン・ロベスピエール	革命の指導者
アンドレ・フィリドール	作曲家 チェスの名手
ナポレオーネ・ブオナパルテ	將軍
レティツィア・ブオナパルテ	ナポレオーネの母 エレーヌの友人
エカチエリーナ(ソフィー)	ロシアの女帝
パーヴェル・ペトロヴィチ	エカチエリーナの息子
アレクサンドル	エカチエリーナの孫
ブラトン・ズーホフ	エカチエリーナの寵臣
シャビン	トゥアレグ族の若い男
シャルロ	ミレーユの息子
シャルロット	ミレーユの娘

局面の分析

チェスは分析の芸術である。

——ミハイル・ボトヴィニク

ソ連のグランド・マスター——世界チャンピオン
チェスは想像力である。

——ダヴィッド・ブロンスタイン

ソ連のグランド・マスター——
感知できないものは、けっして獲得できない。

——ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ『ファウスト』

沿岸道路は長い曲線を描いて湾曲し、角を曲がるたびに、眼下には岩場に白波の碎けるはつとするような光景が現れる。小さな花をつけたサボテンやコケ類が、剣きだしの岩肌にしがみついて波しぶきに洗われ、アイスプラントが鮮やかな赤紫と黄金色の花を咲かせて、棘のある葉でリース模様を描きながら、塩のこびりついた岩を這いおりていく。きらきら光る海面はメタリック・グリーン——ソラリンの瞳の色だった。

けれども、わたしの頭には昨夜からいろんな考えが渦巻き絡み合って、景色を楽しんでいる余裕はなかった。タクシーが見晴らしのいい崖沿いの道をアルジェに向かうあいだにも、わたしはなんとかそれを整理しようとしていた。

何度2と2を足してみても、答えはいつも8になった。いたるところに8が出てくるのだ。まず最初に、占師がわたしの誕生日を引き合いに出して、8に結びついていることを指摘した。それから、モーデカイが、シャリフが、ソラリンが、まるで魔法の記号みたいのに、8を呼び出した。わたしの掌には8の字が刻印されているし、ソラリンは8の公式というものがあると聞いた——それが何を意味するのかはわからないが、その言葉を最後に、彼は夜のなかに姿を消し、わたしはシャリフにホテルまで送ってもらはめになった——ソラリンが鍵を持ったままいなくなったので、部屋へ入れるかどうかさえわからずに。

わたしのハンサムな連れが何者で、なぜとつぜん姿を消したのか、当然ながら、シャリフは知

りたがった。わたしのようになつまらない女が、新しい大陸に到着して数時間のうちに、ひとりならずふたりもの男性とデートできるなんてとてもうれしいわ、とわたしは言つてやった——シャリフとその手下どもには、パトカーでわたしを送るあいだ、勝手に首をひねるにまかせておいた。ホテルに着くと、部屋の鍵はフロントに届いており、部屋の外にはもうソラリンの自転車はなかった。安らかな一夜の眠りはすでにめっちゃめっちゃだったから、こうなったら朝まで少し勉強でもして時間をつぶすしかないだろう、とわたしは覚悟した。

いまや、公式があるのはわかつていた。しかも、それは単なるナイトのツアーの公式ではない。リリーが想像したように、なにか別種の公式があるのだ——ソラリンさえもまだ解読していない公式が。そして、それがモングラン・サーヴィスとなんらかのかたちで結びついているのは、まづ間違いないさうだった。

ニムは数学の公式やゲームに関する本をたくさん送つてくれた。彼はそうやってわたしに警告しようとしたのではないか。わたしはまずシャリフがいちばん興味を示した本からはじめることにした。ニムが書いた、フィボナッチの数列に関する本である。わたしはそれを明け方かくまで読みつづけた——はつきりどうとは言えないが、なんだか少しわかつてきたような気がした。フィボナッチの数列は、どうやら株式市場の予測に使われているだけではないらしい。

レオナルド・フィボナッチは、第1項と第2項を1とし、第3項以降をそれに先行する二項の和とする、非常に興味深い特性をもつ数列をつくった。すなわち、 $1, 1, 1+1=2, 2+1=3, 3+2=5, 5+3=8, \dots$ 等々。

フィボナッチには神秘主義者じみたところがあったらしく、あらゆる数字に神秘的な特性があると信じるアラブ人のあいだで数学を研究した。そして、この数列の隣り合う二項の比のつくる分数が自然界にある螺旋形をなすあらゆるものの構造を説明することを発見したのである。

ニムの本によれば、その後、植物学者は、花びらや茎が螺旋形についている植物はすべてフィボナッチの数列に従っていることを発見した。また、動物学者は、オウムガイその他のあらゆる螺旋形の海洋生物がこのパターンに合致することを知っている。さらに、天文学者は、太陽系の惑星の相互関係——さらには、銀河系の形までが——フィボナッチの数列で説明できると主張している。だが、ニムの本の説明を待つまでもなく、わたしはもっと別のことに気づいた。わたしが数学に詳しくなかったからではなく、音楽を専攻したからである。このちょっとした公式はレオナルド・フィボナッチが発明したわけではなく、じつはそれより二千年もまえにピタゴラスという男が発見していたのである。ギリシャ人はそれを黄金分割アウロ・セクションと呼んでいた。

簡単に言えば、線分を一点によって二つの部分に分けたとき、その二つの長さの比が長いほうと全体の比に等しければ、この点は線分を黄金分割しているという。この比率は、あらゆる古代文明で建築、絵画、音楽に用いられている。プラトンとアリストテレスは、これがあるものが美しいかどうかを決定する「完璧な」比率だとみなしている。しかし、ピタゴラスにとっては、それはもっとはるかに重要な意味をもっていた。

ピタゴラスは筋金入りの神秘主義者で、それと較べれば、フィボナッチなど素人の冷かしにかみえない。ギリシャ人は彼を「サモスのピタゴラス」と呼んだが、それは彼が政治的な厄介事から逃れるために、サモス島からクロトナにやってきたからだだった。同時代人の証言によれば、彼はフェニキア（現在のレバノンにあたる）の古代都市ティルスTyrosの生まれで、広く旅行し、エジプトには二十一年、メソポタミアには十二年滞在し、クロトナにやってきたときにはとうに五十歳を過ぎていたという。そこでいちおう学校という名をつけた神秘主義教団をつくり、世界を放浪して学んだ秘密の知識を弟子たちに教えたのである。その秘密の知識は数学と音楽を軸にしたものだった。

西洋音楽の音階の基礎がオクターヴであることを発見したのはピタゴラスだった——ある弦の半分の長さの弦を掻き鳴らすと、倍の長さの弦よりちょうど八度高い音が出る。弦の振動数はその長さに反比例するのだ。彼の秘密の教えのひとつは完全四度の音程（オクターヴの黄金分割にあたる）で、これを十二回繰り返して上行すると、八オクターヴ高い原音に戻るはずだが、実際には、全音の八分の一ずれた音になる——つまり、上行する音階も螺旋形になっているのである。しかし、ピタゴラスの理論の最大の秘密は、なんと言っても、宇宙はそれぞれが神聖な特性をもつ数で構成されているという説だろう。この不思議な数の比率は、自然界のあらゆるところに現れており——ピタゴラスによれば——真つ暗な真空中を移動する惑星の振動によって生じる音も例外ではないという。「弦のうなりには幾何学があり、天体の配置には音楽がある」とピタゴラスは言う。

ところで、これがモングラン・サーヴィスとどんな関係があるのか？ チェス・セットには片側に八つのポーンと八つの役駒があり、チェスボードは六十四の柁目——八の二乗——で構成されている。そして、ここに公式がある。ソラリンはそれを8の公式と呼んだ。そういう公式ならば、すべてが8から成るチェス・セット以上に理想的な隠し場所があるだろうか？ 黄金分割のように、フィボナッチの数列のように、無限に上昇する螺旋のように——モングラン・サーヴィスはその部分の総和よりも大きいのだ。

走りつづけるタクシーのなかで、わたしはブリーフケースから紙片を取り出し、そのうえに数字の8を書いた。それから、その紙を横にした。すると、それは無限を表す記号になった。目のまえで震えているそのかたちを見つめっていると、頭のなかに響きわたる声があった。へもうひとつのゲームのように……この戦いは永遠につづくだろう。